

21春闘・経営者団体要請行動

コロナ禍を克服し、地域経済を回復させよう!

最低賃金、同一労働同一賃金、中小企業支援など要請



県商工会議所連合会に要請書を手渡す勝見議長

県労連は二一春闘の全国統一行動日の三月十一日を軸に、経営者団体への要請行動に取り組みました。勝見忍議長や佐藤完治事務局長らが県商工会議所連合会、県中小企業団体中央会、県商工会連合会、県経営者協会の四団体を訪れ、要請書を手渡し懇談しました。要請は、▼コロナ禍における雇用維持の強化▼パートタイム有期雇用労働法の周知徹底▼中小企業支援拡充の要望▼最低賃金の全国一律化と大幅引き上げ、など一六項目。

「『支払い能力』についてどのくらいの支払い能力を補填すれば最賃引き上げが可能になるのか」と問題提起し、厚労省は必要データを示すべきと強調しました。また、「格差解消のため全国一律化をはかること」

「新型コロナウイルスから国民のいのちを守り、暮らしを共に支えよう」との思いを込めて、三月二十六日、吉村美栄子知事宛の「ワクチン

発行責任者 勝見忍
山形市薬師町2-6-15
TEL 023(615)2172
FAX 023(615)2173
URL: <http://www.yamagataroren.com/>
Email: yamagataroren@yahoo.co.jp



21春闘・全国統一行動

国民のいのち守れ!

医労連と春闘共闘が街頭署名行動

二一春闘・全国統一行動日の三月十一日、県春闘共闘委員会は、県医労連と共同で「いのちまもる街頭宣伝行動」を実施。約二〇人が参加し、山形駅東口で「いのち守れ」(安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための国会請願署名)の協力を呼びかけ、通行人が次々に署名しました。県労連の勝見忍議長や県医労連の上田潤書記長などがマイクを握り、コロナ禍中で感染リスクにさらされながら奮闘する医療労働者の



呼びかけにこたえ署名する人たち

検査の抜本拡充、医療機関への支援

コロナ共同アクションが県に要請

「新型コロナウイルスから国民のいのちを守り、暮らしを共に支えよう」との思いを込めて、三月二十六日、吉村美栄子知事宛の「ワクチン接種、検査体制拡充、医療支援に関する要請書」を県に提出しました。これは三月初旬には、同二六日に担当部局に手渡し要請・懇談する計画でしたが、同二十一日に山形県独自の緊急事態宣言が出され、同二五日には過去最高の四九人の感染者が確認される中で担当課が対応できず、郵送に切

り換えたものです。要請書では、高齢者施設や医療機関でのクラスター(感染者集団)発生が感染拡大の要因になっていることをふまえ、政府の感染対策は「大規模検査の戦略が欠けている」と指摘。県独自の感染対策強化と、国に対して医療機関への支援や検査の拡充を求めています。

具体的には、▼ワクチン接種については、迅速な情報公開、市町村との連携強化▼保健所、県衛生研の体制強化▼医療機関への減収補填など九項目。同アクションでは、今後機会をとらえて対面での要請を行う意向です。

東日本大震災・原発事故から10年の「3・11」

“300万円では家は建てられない”―被災者生活再建支援拡充を 震災・原発事故避難者なんでも相談会実委が街頭署名活動



多くの人が足をとめ署名

東日本大震災・原発事故から一〇年となった三月十一日、震災・原発事故避難者のためのなんでも相談会実行委員会は、JR山形駅・東西自由通路で「被災者生活再建支援制度の抜本的拡充」を求めて署名活動を行いました。各団体から一七人のメンバーが参加し通行人に署名を呼びかけると、あちこちに人だかりができ、六〇分間で一二六筆もの署名が寄せられました。

中山町の二〇代女性は「被災者住宅の家賃が値上げされたという報道を見た。私も何かできないかと思った」と署名しました。宮城県七ヶ浜町で津波に遭い、家屋全壊の被害を受けた世帯を親戚にもつ山形市の五〇代女性は「被災者は三〇〇万円の支援金だけでは住宅を再建できない。国の責

任で普通の暮らしができるようにしてほしい」と訴えました。震災時に幼稚園児だった高校一年の男子は「寒さと停電の中で余震が続き、オール電化のため暖房も使えず、大変な思いを

二〇二〇年七月豪雨災害
県労連が山形市に義援金

昨年七月の豪雨災害の復興に役立ててもらおうと、県労連は三月一六日、山形市に義援金として一〇万円を寄付しました。県労連は昨年来、被災自治体に同様の支援を行っています。

この日は勝見議長と佐藤事務局長が市役所を訪れ、佐藤孝弘市長に目録を手渡しました。佐藤市長は「広範囲に被害が及んだので、寄付を有効に活用したい」と謝辞を述べました。また、市長から感謝状（写真）が贈られました。勝見議長はこの機会に、知事選挙後、県といくつかの市長との間で不協和音が起きている問題にふれ、県市長会長でも

市長から感謝状（写真）が贈られました。勝見議長はこの機会に、知事選挙後、県といくつかの市長との間で不協和音が起きている問題にふれ、県市長会長でも



右から佐藤事務局長、佐藤山形市長、勝見議長



山形市からの感謝状

ある佐藤市長に対し「コロナや災害克服のためにも県と市町村が力を合わせるよう音頭をとってほしい」と求めました。

“軍事費を削ってコロナ対策にまわせ！”

国民大運動山形県実行委員会が年次総会ひらく 高橋千鶴子衆議院議員がオンライン国会報告も

「軍事費を削ってコロナ対策にまわせ！」国民大運動山形県実行委員会が年次総会ひらく。高橋千鶴子衆議院議員がオンライン国会報告も。



主催者あいさつする佐藤弘代表委員（山商連会長）

勝った県知事選挙を通じて焦点になった県政の課題と前回総会以降の経過を報告、二〇二一年の運動方向を提案しました。参加者による活発な活動報告を交流し、「軍事費を削ってコロナ対策にまわせ」を掲げ、「総選挙に向けて市民と野党の共闘前進の一翼を担う」とする運動方針を採択しました。

続いて、共産党の高橋千鶴子衆議院議員がオンラインで国会報告を行いました。野党四党が共同提出した「医療・介護・保育労働者等への慰労金支給法案」の質疑など報告。また、山形県の「三十三人学級」を現実させた県民運動にふれ、「今国会で小中学校の三十五人学級の実現につながっている」と強調しました。